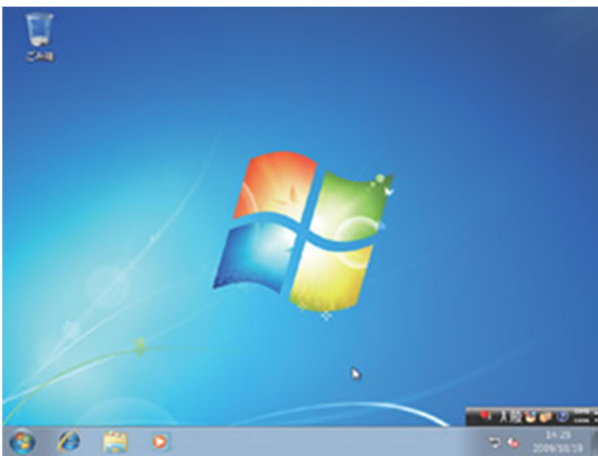




### 「14」ネットワークの選択

PC を設置しているネットワーク環境を、ホーム、オフィス、パブリックの三つから選ぶ。自宅であればホームでよい



### 「15」インストール完了

デスクトップの構築など数分ほどの設定作業が行なわれた後に Windows 7 が起動し、インストール作業は完了だ

## Windows 7 のインストール方法

TEXT: 宇野貴教

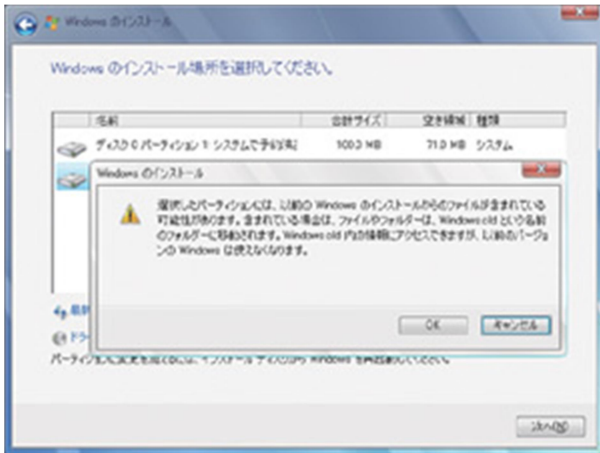
### 「3」以前のファイルを残せる準クリーンインストール

Windows XP 上から Windows 7 のインストールを開始した場合や、Windows 7 のインストールウィザードで「新規インストール(カスタム)」を選択し、インストール場所としてすでに Windows がインストールされているドライブ を指定した場合、既存 OS のファイルを残したまま Windows 7 がインストールされる。

具体的には、既存の Windows や Program Files フォルダ内のファイルが「Windows.old」フォルダにすべてコピーされて、新たに作られた Windows フォルダに Windows 7 がインストールされる。Windows.old フォルダ内のファイルは以前のファイルを単にコピーしただけであり、設定が引き継がれるわけではなく、インストールしていたプログラムも利用することはできない。インストールされる Windows 7 は、クリーンインストールされたものと同様というわけだ。これが、本特集で「準ク

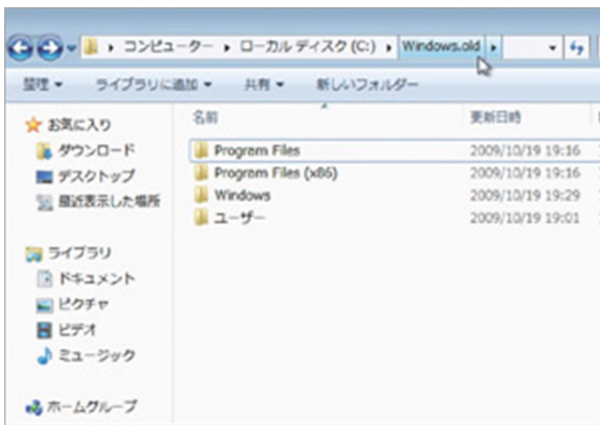
リーンインストール」と呼んでいる方法だ。

準クリーンインストールで注意したいのは、Windows.old フォルダはかなり大きくなること。事前の環境にもよるが、場合によっては数十 GB の巨 大なフォルダになる。「ディスククリーンアップ」で削除できるので、ディスク容量を圧迫しているのなら Windows 7 への移行が完了してから消してしまえばよい。



#### 既存 OS の有無は自動で判断される

Windows 7 をインストールしようとするドライブにすでに OS があると、そこで使われていたファイルを残すことについてダイアログが表示される



#### Windows.old フォルダの内容

Windows.old フォルダには、以前の OS にあったシステムフォルダ、ユーザーフォルダ、Program Files などが保存される

#### インストール前に使いたい「Windows 7 Upgrade Advisor」

Microsoft が配布している「Windows 7 Upgrade Advisor」は、現在の環境から Windows 7 にアップグレード可能かどうかを検査してくれるツールだ。具体的には、アップグレードインストールの可否や Windows Aero を利用できるかどうかなどが分かる。現在インストールされているアプリケーションやドラ

イバも、Windows 7に対応、あるいは非対応が正式にアナウンスされているものがリストアップされる。Windows 7をインストールする前にこのツールでチェックしておきたい。



32bitと64bitの両方を報告  
インストール済みのハードウェアのドライバやアプリケーションをチェックし、Windows 7との互換性を報告してくれる



システム要件をチェック  
すべてのシステム要件を表示させたところ。Windows Aero が使えるか、CPU やメモリ、HDD は要件を満たしてい

るかが確認できる

#### 「4」アップグレードインストールの方法

前バージョンである Windows Vista の設定やアプリケーション、周辺機器のドライバなどを引き継いで Windows 7 をインストールする方法がアップグレードインストールである。システムの再設定やアプリケーションの再インストールが不要なため、スムーズに Windows 7 を使い始められる。ただ、すでに述べたようにインストール元の Vista と Windows 7 のエディションなどの組み合わせによってはアップグレードインストールを利用することはできない。

アップグレードインストールを開始できたとしても安心できない。問題があるアプリケーションやドライバが存在する場合でも、アップグレードインストールは行なえないからである。

ただ、これらはセットアップ中にチェックが行なわれ、問題があれば警告とその対処法を表示してくれる。なお、最新のサービスパックが適用されていないなど、現在使っている OS が問題となるケースもある。Windows 7 をアップグレードインストールするときは、Windows Update を実行して Vista を最新の状態にしておきたい。

実際にアップグレードインストールを行なうには、Windows Vista 上で Windows 7 のインストールメディアをマウントしてセットアップを実行する。インストールプロセスはクリーンインストールや準クリーンインストールと大きな違いはないが、「インストールの重要な更新プログラムの取得」や、前述したアプリケーションやドライバの互換性の問題をチェックした結果を表示する「互換性のレポート」といったステップが追加されている。

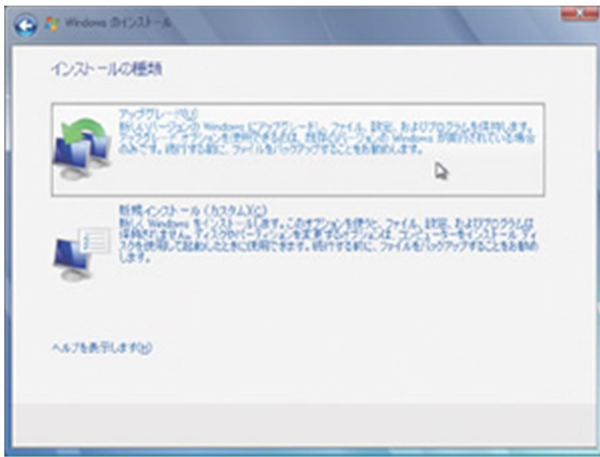
ちなみに 32bit の Windows Vista/XP から 64bit の Windows 7 をインストールしようとしたケースなどではインストーラ自体が起動せず、エラーダイアログが表示されてしまう。また Windows Vista Ultimate から Windows 7 Home Premium など、下位エディションにアップグレードインストールしようとした場合や、そもそもアップグレードパスが用意されていないエディションにアップグレードしようすると、インストーラでアップグレードインストールを選択した時点でエラーダイアログが表示される。



#### Windows Vista からセットアップ実行

アップグレードインストールは、動作中の Windows Vista から Windows 7 のセットアップを実行する





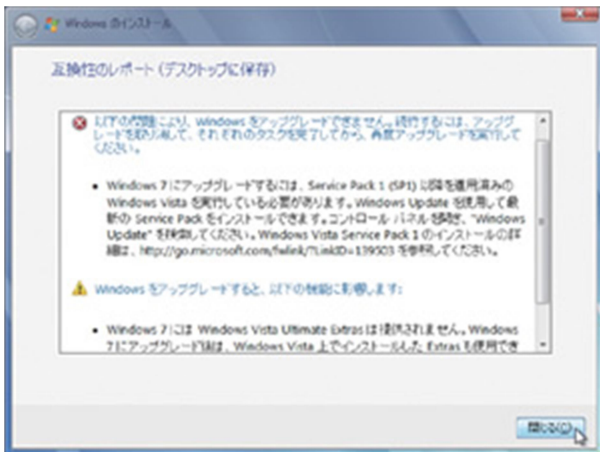
### メニューでアップグレードを選択

インストール中の画面。この「インストールの種類」で「アップグレード」を選択すると、アップグレードインストールになる



### 最新のアップデートを入手

セットアップの最中にインターネット経由で最新のアップデートを入手できる。問題回避のためにも、入手しておこう



### 問題点のチェックと回避方法

インストール前にシステムのチェックが行なわれ、問題がある場合は画面上にレポートが表示される。対処法も記されているので、それに従って作業を進めていこう

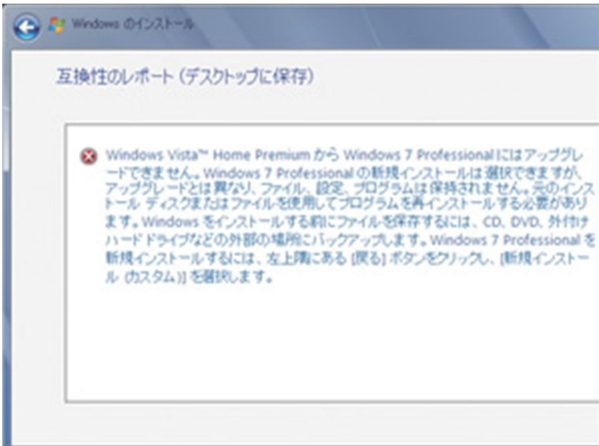






### インストーラが起動しない

32bit の Windows Vista で、64bit の Windows 7 のインストーラを立ち上げようとしたところ。このようなダイアログが表示されて、インストーラ自体が立ち上がらない



### インストールの途中でエラー

下位エディションへの移行、あるいは上位エディションの移行でもアップグレードパスがない場合などは、インストーラの途中でこのエラーが表示されてしまう

## Windows 7 のインストール方法

TEXT: 宇野貴教

### 「5」Windows 7 と Vista/XP を共存させる

Windows 7 と Windows Vista/XP を共存させるには、マルチブート環境を構築すればよい。注意しなければならないのは、それぞれの OS をインストールする順番である。最初に Windows Vista/XP をインストールし、その後 Windows 7 をインストールしなければならない。この順番を間違えると、古い OS のブートマネージャーが Windows 7 のブートマネージャーを上書きしてしまい、Windows 7 が起動できなくなってしまうのだ。古い OS が先、新しい OS が後の順番で行なうと覚えておけばよい。

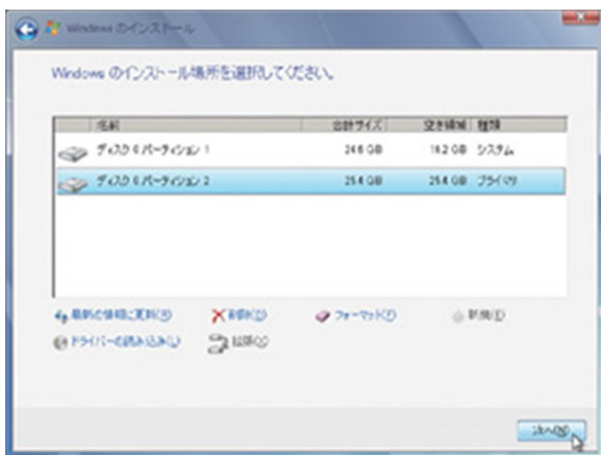
このポイントさえ注意すれば、マルチブート環境を構築するのは難しくない。インストールも現在の Windows がインストールされていないパーティションを選択し、クリーンインストールを行なうだけだ。こうして別パーティションに Windows 7 をインストールすれば、起動時にブートメニューが表示されるようになり、どの OS で起動するかが選択可能になる。どれか一つの OS を集中的に使うということであれば、Windows 7 のシステムのプロパティにある「起動と回復」で、デフォルトで起動する OS や、ブートメニューの表示時間を短く設定することで素早く起動できる。

古い OS を使うことがなくなったなどの理由でマルチブート環境から Windows Vista/XP を削除する場合、単にそれらがインストールされているパーティションから Windows フォルダを削除する、あるいはフォーマットするだけでは不十分だ。ブートマネージャーに以前の OS の設定(ブートエントリー)が残り、一つしか OS がインストールされていなくても、起動のたびにブートメニューで OS の選択を求められてしまうからだ。

この問題を解消するためには、ブートマネージャーから削除したい OS のブートエントリーを消す必要がある。Windows 7/Vista には「bcdedit」というコマンドが用意されており、これを利用することでブートエントリーを削除できるが、コマンドプロンプト上での操作のため敷居が高い。

そこで使いたいのが「[EasyBCD](#)」というフリーソフトだ。このソフトはブートマネージャーの内容を GUI で編集できるツールで、コマンドプロンプトを使わずにブートエントリーをカスタマイズすることができる。これを使って Windows Vista/XP のブートエントリーを削除するわけだ。ちなみに Windows Vista と 7 のデュアルブート環境で Windows 7 を削除したい場合でも、EasyBCD を使って Windows 7 のブートエントリーを削除できる。

なお、Windows XP と 7 のデュアルブート環境で Windows 7 を削除するには、EasyBCD や bcdedit ではなく、Windows XP の「fixmbr」コマンドを利用する。作業手順としては、まず Windows 7 のシステムとプロパティで「起動と回復」を選択し、Windows XP をデフォルトの OS に変更する。その上で Windows XP のインストールディスクで PC を起動して「回復オプション」を選択した後、コマンドラインから「fixmbr」を実行すれば、XP のみが起動するようにブートマネージャを書き換えられる。



#### 既存 OS と別のパーティションを選択

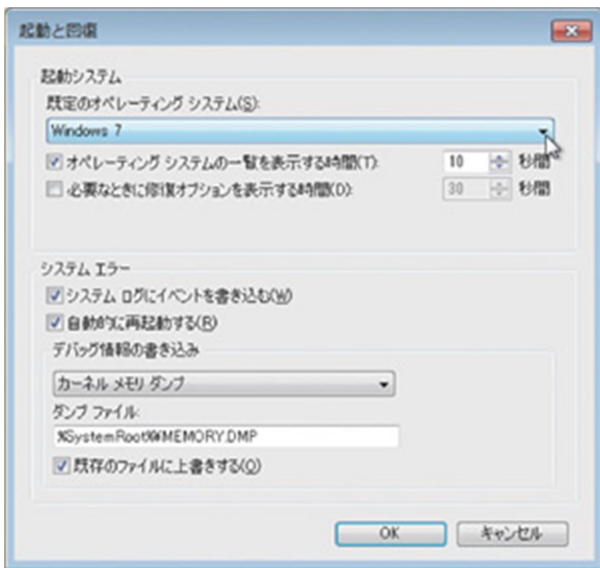
マルチブート環境を構築するには、既存 OS とは別のパーティションに Windows 7 をインストールすればよい





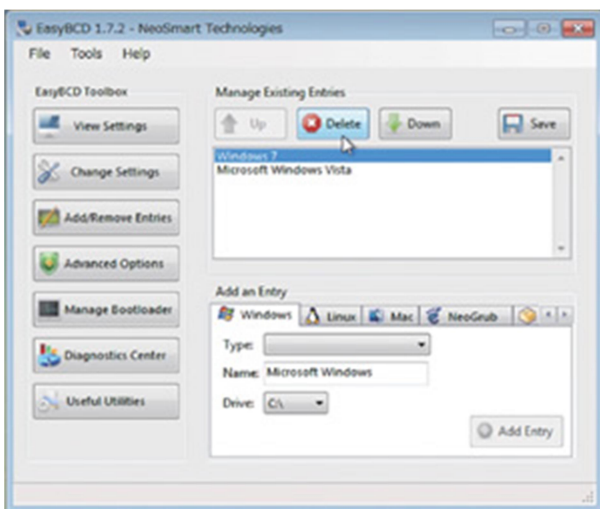
### 起動メニューが表示される

マルチブート環境になると、OS 起動時にどちらの OS を起動するかを選択するメニューが表示されるようになる



### 起動メニューのカスタマイズ

システムのプロパティにある「起動と回復」で、標準の OS とメニューを表示する時間の設定が行なえる



### EasyBCD でブートメニューを編集

フリーソフトの「EasyBCD」を使えば、「Add/Remove Entries」で Windows 7 をブートエントリーから削除できる

「6」VHD に Windows 7 をインストールする



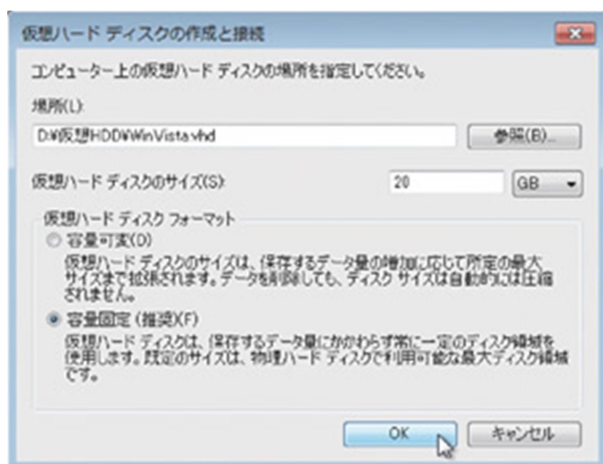
「VHD」(Virtual Hard Disk)とは、Microsoft の仮想 PC 環境である「Virtual PC」や「Hyper-V」において使われている仮想的な HDD の仕組みである。実態は拡張子が「.vhd」のファイルであり、仮想環境上の OS はこのファイルを見立ててデータの読み書きを行なう。

従来この VHD を使うのは仮想環境上の OS であり、実環境の OS からは単なるファイルでしかなかった。しかし Windows 7 では、この VHD を実際の HDD と同様に扱う仕組みが追加されている。具体的には、「コンピュータの管理」にある「ディスクの管理」から、VHD を物理ストレージと同じようにマウントしたり、パーティションを変更したりできるようになった。これにより、たとえば 1 パーティションで利用している HDD 内に VHD を作成し、それを別の HDD としてマウントし、二つのドライブとして使うといったことが可能になる。VHD のサイズは作成時に任意で指定できるので、ディスクサイズも思いのまま。マウントしなければただのファイルなので、バックアップが容易なこともメリットだ。

さらに Windows 7 では VHD への OS のインストールが可能で、ブートマネージャで VHD を起動ドライブとして指定できる。つまり VHD に Windows 7 をインストールし、それを起動ドライブに指定すれば、VHD を使って PC を立ち上げられるわけだ。こうして動作する Windows は、仮想環境上で動作するわけではないため、CPU やビデオカードのパフォーマンスを十分に引き出せる。

VHD に Windows 7 をインストールする手順は、まず Windows 7 の DVD からブートし、「システム回復オプション」でコマンドプロンプトを起動する。続けて「diskpart」コマンドを使って VHD を作成し、そこに Windows 7 をインストールすればよい。

なおブートマネージャで VHD を指定した場合に、起動できる OS は Windows 7 または Windows Server 2008 R2 のみとなっている。たとえば Virtual PC などを使って Windows Vista/XP をインストールした VHD を作成しても、残念ながらそれを使って PC を立ち上げることはできない。



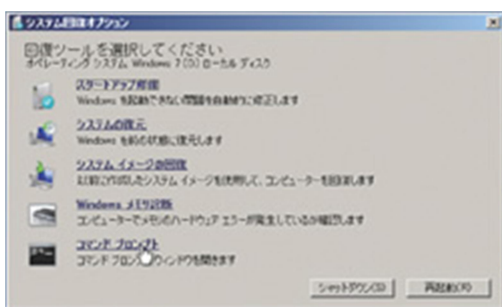
## VHD の作成とマウント

VHD ファイルの作成やマウントはディスクの管理の「操作」メニューから行なう。作成直後には初期化とフォーマットが必要だ



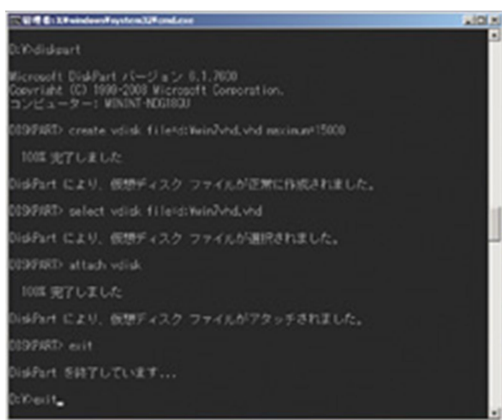
## Windows 7 入りの VHD を作成

Windows 7 の DVD からブートし、「今すぐインストール」のボタンが表示される画面で、「コンピュータを修復する」を選択する



## コマンドプロンプトを選択

「システム回復オプション」が表示されるので、この中から「コマンドプロンプト」を選択する



## コマンドで VHD を作成

diskpart コマンドを使い、VHD ファイルを作成してマウントする。ファイルを作成する場所に注意しよう

```
d:¥>diskpart
```

diskpart ユーティリティを起動する

```
DISKPART> create vdisk file=D:¥ win7vhd.vhd maximum=15000
```

VHD ファイルを作成する。「file=」に続けて VHD を作成する場所とファイル名、「maximum」に続けてディスクサイズを MB 単位で指定 (例では 15GB)

```
DISKPART> select vdisk file=D:¥ win7vhd.vhd
```

「file=」に続けて、作成した VHD ファイルを指定して VHD を選択

```
DISKPART> attach vdisk
```

選択した VHD をマウント

```
DISKPART> exit
```

diskpart ユーティリティの終了

```
d:¥>setup
```

インストールプロセスを再実行

## VHD の作成とマウント

Windows 7 のインストールメディアで、コマンドプロンプトを使って VHD を作成し、そのままマウントする。なおドライブレター(「d:」と「D:」)は環境によって変化するため、自身の環境に応じて読み換えていただきたい。インストールプロセスが再開された後、インストール先のドライブとして VHD を選択すればインストールが行なわれる

## Windows 7 対応周辺機器 & アプリケーションリスト

Windows 7 は Windows Vista と高い互換性を持った OS だ。とはいえ、Vista 対応の周辺機器やアプリケーションが Windows 7 でも確実に動くという保証はなく、動作自体はするものの一部の機能が無効になってしまったり、まったく動作しなかったりするものもある。

一番確実なのは「Compatible with Windows 7」ロゴを取得している製品を使うことだ。メーカーによっては Windows 7 の対応状況 Web サイトで公開しているので、まずは現在自分が使用している周辺機器やアプリケーションについて確認してみよう。

ここでは、主要メーカーのメジャーなジャンルの製品に絞って、Windows 7 対応状況をリストにまとめてみた。ここに掲載している以外のものは、メーカーの Web サイトや Microsoft の Windows 7 対応情報サイト、ユーザーコミュニティなどを利用し、対応情報を入手してほしい。



[販売](#) シリーズ、PX シリーズほか

リーズは非対応

[キヤ  
ン](#) PIXUS iP100、iP2600、iP4700、iX7000、  
mini360、MP270、MP490、MP540、MP640、  
MP990 ほか

○ ○ 一部機種は Compatible with  
Windows 7 ロゴ取得予定

## ネットワーク関連

メーカー名	主な対応機種	対応状況		備考
		32bit	64bit	
<a href="#">NEC アクセ ステクニカ</a>	Aterm WL54GU、WL54SE2、WN300NC、 WR4100N、WR6600H、WR7850S、 WR8100N、WR8500N ほか	○	△	USB および PC カード版の 無線 LAN アダプタは 64bit 版の WPS 機能には非対応
<a href="#">バッファロ ー</a>	Airstation WHR-AMPG、WHR-HP-GN、 WLI-CB-AGHP、WLI-UC-AG、 WLI-UC-AG300N、WZR-HP-G300NH ほか	○	○	AirStation 倍速設定ツール は非対応
<a href="#">プラネット ス コミュニ ケーション ズ</a>	BLW-54CW3、GW-EC300N5P、 GW-US54Mini2G、GW-USMicroN-G、 MZK-W300NAG ほか	○	△	WPS 非対応。Xlink Kai は 32bit 版のみの対応および 対応予定で、64bit 版は非 対応

## マルチメディア

メーカー名	主な対応機種	対応状況		備考
		32bit	64bit	
<a href="#">アイ・オー データ機器</a>	GV-MVP/HS、GV-MVP/HZ2W、 GV-MVP/RZ3、GV-MVP/VS、 GV-SC200M、GV-SC400 ほか	○	△	一部製品は 64bit 非対応。 Windows ガジェット非対応
<a href="#">エスケ イネット</a>	MonsterTV HDP2 Gold、MonsterTV HDPS、MonsterTV HDU2、MonsterTV HDUC ほか	○	○	
<a href="#">オンキ ヨー</a>	SE-90PCI、SE-150PCI、SE-200PCI、 SE-U33GXV、SE-U55SX	○	○	SE-U33GXV 付属ソフトは Windows 7 非対応
<a href="#">クリエイ ティブメ ディア</a>	PCI Express Sound Blaster X-Fi Titanium、Sound Blaster Audigy 4、 Sound Blaster X-Fi Digital Audio ほか	○	○	動作確認が取れているが、サポ ートは対象外



10月18日時点の対応製品は  
 ○ ○ PIX-DT090-PE0 と  
 PIX-DT096-PE0 の2モデル

[ピクセラ](#) PIX-DT090-PE0、PIX-DT096-PE0

そのほか

メーカー名	主な対応機種	対応状況		備考
		32bit	64bit	
<a href="#">玄人志向</a>	ATA133RAID-LPCIe、PeSATA-PCIe、SATA2E2-PCIe、USB2.0N+1394T-PCI、USB5+eSATA-PCI ほか	○	○	OS 標準ドライバで対応
<a href="#">プリンス ンテクノ ジー</a>	PTM-UBT5、PPF-OVO、PWC-1300AFS ほか	○	—	64bit 版は動作確認中
<a href="#">ラトックシ ステム</a>	REX-PE30S、REX-PE50F、SA-DK2EU-R、SA-RC1PE-LG ほか	○	△	一部製品は64bit 非対応

アプリケーション

システムユーティリティ

メーカー名	主な対応機種	対応状況		備考
		32bit	64bit	
<a href="#">Acronis</a>	True Image Home 2009	△	△	アップデートで対応予定
<a href="#">アーク情報シ テム</a>	CD 革命/Virtual Ver.1.1、HDD 革命/Virtual Ver.9	×	×	現状では対応せず
<a href="#">ソースネクスト</a>	B's Recorder Windows 7 対応版	○	○	
<a href="#">ライフポート</a>	LB ブートマネージャー+LB パーティションワークス 13	○	○	

セキュリティ対策

メーカー名	主な対応機種	対応状況		備考
		32bit	64bit	

<a href="#">ALWIL Software</a>	Avast! 4 Home Edition	○	○	
<a href="#">McAfee</a>	トータルプロテクション 2009	○	○	2010 年度版パッケージは正式対応。 2009 年度版は要アップデート
<a href="#">Microsoft</a>	Security Essentials	○	○	Compatible with Windows 7 ロゴ取得
<a href="#">Symantec</a>	ノートンインターネットセキュリティ 2010/2009	○	○	2010 は正式対応。2009 は自動アップデートで対応
<a href="#">Trend Micro</a>	ウイルスバスター 2010/2009/2008	○	○	2010 は正式対応。2009/2008 は 2010 への無償アップグレードで対応
<a href="#">ソースネクスト</a>	ウイルスセキュリティ ZERO	△	△	Windows 7 非対応版は有償アップデートにて対応

## ビジネスソフト

メーカー名	主な対応機種	対応状況		備考
		32bit	64bit	
<a href="#">Adobe Systems</a>	Adobe Reader 9	○	○	
<a href="#">Microsoft</a>	Office 2007/2003/XP	○	△	64bit 版 Windows 7 では 32bit エミュレータ (WOW64) 上にて動作
<a href="#">ジャストシステム</a>	ATOK 2009/2008/2007	△	△	一部の機能が正常に動作せず

## マルチメディア

メーカー名	主な対応機種	対応状況		備考
		32bit	64bit	
<a href="#">Adobe Systems</a>	Creative Suite 4	○	○	10 月 18 日時点では検証で問題なしとされている
<a href="#">CyberLink</a>	PowerDVD 9、PowerDirector 8	○	○	Compatible with Windows 7 ロゴ取得
<a href="#">LoiLo</a>	LoiLoScope、LoiLoTouch、Super LoiLoScope	○	○	Compatible with Windows 7 ロゴ取得
<a href="#">ペガシス</a>	TMPGEnc 4.0 XPress	○	○	Ver.4.4.2.238 以降